

“我が家の水害リスク診断書”の効果検証について

令和6年3月27日（水）

首都圏における広域的な避難対策の具体化に向けた検討会

■令和5年3月28日 首都圏に広域的な避難対策の具体化に向けた検討会（第3回）の概要について 資料1 一部抜粋

首都圏における大規模風水害時の防災情報の発信・伝達のあり方について（概要）

IV 広域避難対策における効果的な情報発信・伝達に向けて

- 膨大な広域避難者数、鉄道等の計画運休や車両渋滞による移動手段の制約等といった特殊性から、広域避難は早期の動き出しが求められ、まだ晴天・曇天でも、住民が避難の必要性を実感できる情報の発信・伝達が必要
- 広域避難を促すために必要な情報発信・伝達体制を以下の3つの観点から整理
 - ① すべての住民に対して必要な情報を確実に伝えるための発信体制の強化
 - ② **水害リスクを「我がこと」として伝えるための発信情報の充実**
 - ③ 停電・通信途絶等の事態も見据えた人づてによる情報伝達体制の確保
- 広域避難の特殊性を踏まえ、広域避難に関する情報等の各発信段階における発信事項や手段の効果的な組合せを整理

「我が家の水害リスク診断書」の配布を実施

■「我が家の水害リスク診断書」の目的

一世帯ごとに想定される浸水の深さや継続時間等を分かりやすく**ダイレクトに周知**し、住民が水害リスクを「我が事」として捉え、**適切な避難行動が取れる**よう促す

“我が家の水害リスク診断書” 配布の概要

- 対象者：江東5区（墨田区・江東区・葛飾区・足立区・江戸川区）のうち、特に水害リスクの高い地域の世帯※1を対象に、区と連携して配布
- 配布件数：約47万件
- 配布時期：令和5年7月～11月
- 対象災害：荒川・江戸川・中川の洪水氾濫、東京湾高潮氾濫（区毎に設定）
- 通知内容：①各自宅・各災害の水害リスク、②推奨される避難行動、③主な備蓄品目等

※1 原則として、「想定される浸水の深さが5m以上」または「家屋が倒壊する等のおそれ」のある町丁目に住民基本台帳の登録がある世帯主

■我が家の水害リスク診断書イメージ (配布サイズ：A4 (A3折り畳み))

数値で表示

(表面)

1. 水害リスク診断結果

ご自宅の住所：江戸川区〇〇丁目2番3号

水害リスク診断結果：ご自宅の地域には水害リスクがあります。

主な水害リスク※1	荒川の洪水	江戸川の洪水	高潮
①浸水の深さ※2	5.5 m	3.0 m	3.3 m
②浸水継続期間※3	20 日間	4 日間	6 日間
③堤防の決壊等により家屋倒壊・流出のおそれのある地域に該当	該当する	該当しない	

※1 主な水害リスクは、堤防決壊等により最も被害が大きい種別です。
 ※2 ①の浸水の深さは、地面から水面までの高さです。
 ※3 ②の浸水継続期間は、浸水の深さが50cmを超えて①の

各住所・各災害の水害リスク

②避難行動をフローチャートで表示

ポイント1 大規模な水害発生のおそれがあるとき、「広域避難」が必要になる場合があります。

巨大台風や大雨による大規模な水害発生のおそれがある場合、江東5区※1共同で、約3日前(72時間前)より段階的に「広域避難」(浸水しない区外への避難)の情報を発令します。広域避難の情報に合わせて、天候が晴れていても、早めの避難行動を実施しましょう。

広域避難の準備・取るべき避難行動・避難手段

72時間前(3日前) 共同検算開始 → 避難準備

48時間前(2日前) 自主的広域避難情報 (広域避難の呼びかけ) → 区外の安全な場所へ避難 (高齢者や障害者等、この時点で避難可能な方)

24時間前(1日前) 広域避難指示 → ただちに区外へ退去

9時間前(避難発生) 域内垂直避難(緊急) → 広域避難は困難、近隣の安全な場所へ避難

ポイント2 自宅避難(在宅避難)した場合の生活環境と備蓄について

水害で浸水すると、ライフライン(電気・ガス・水道等)が長期断絶となり、生活にさまざまな支障をきたします。そのため、自宅避難(在宅避難)する場合は、水や食料等の十分な備蓄が必要です。必要な備蓄については、裏面右側の「主な備蓄品目」をご確認ください。

高齢者や障害者等の避難に際し支援のある方へ

- 自宅の外へ避難する場合には、親戚・知人宅へあらかじめ確保して、早めに避難するようにしましょう。
- 自宅にとどまる場合は、備蓄品の他に、薬なども避難のタイミングなど、必要に関する詳しい情報は、お住まいの区に

広域避難時の避難行動

在宅避難時の環境

(裏面)

主な備蓄品目

診断書の内容も踏まえ、必要な備蓄品と数値を考えてみましょう！

●夫婦と乳幼児、高齢女性1人の4人家族で、戸建て住宅にお住まいの例
 ※以下の表はおおよそ3日程度の目安です。
 ※必要な備蓄品・数値は家族構成やお住まいにより異なります。

分類	日常使い(常にキープしておく)	数量	分類	日常使い(常にキープしておく)	数量
食品等	水	1人1日3L	女性	生理用品	30個セット
	無洗米	4kg		基礎化粧品	適宜
	レトルトご飯	27食		粉ミルク	18食
	乾麺 即席麺	3パック		スティックタイプ	18食
	缶詰(さばの味噌煮、野菜など)	9缶		液体ミルク	18食
	果物の缶詰	3缶		アレルギー対応	9食
	レトルト食品	9個		離乳食	3パック
	野菜ジュース	9本		お尻拭き	30個
	飲み物(500ml)	9本		おむつ	18個
	お菓子	3パック		使い捨て哺乳瓶	9食
生活用品	お菓子	3パック	高齢者	おかけ	9食
	お菓子	3パック		補聴器用電池	適宜
	お菓子	3パック		入れ歯洗浄剤	12錠
	お菓子	3パック		災害に備えて準備し、定期的 に使用確認などを行うもの	数量
	お菓子	3パック		カセットコンロ	2台
	お菓子	3パック		カセットボンベ	8本
	お菓子	3パック		携帯トイレ	45回分
	お菓子	3パック		懐中電灯	2灯
	お菓子	3パック		LED ランタン	最低3台
	お菓子	3パック		ヘッドライト	4個
衛生用品	お菓子	3パック	乾電池	適宜	
	お菓子	3パック	手回し充電式などのラジオ	1台	
	お菓子	3パック	携帯電話 充電器	適宜	
	お菓子	3パック	リュックサック	1個	
	お菓子	3パック	除菌ウェットティッシュ	120枚	
	お菓子	3パック	使い捨てコンタクトレンズ	1人1か月分	
	お菓子	3パック	アルコール消毒液	2本	
	お菓子	3パック	災害用キット	90枚程度	
	お菓子	3パック	東京備蓄ナビ		
	お菓子	3パック	東京備蓄ナビで、自分に合った備蓄を調べてみましょう！		

(右のQRコードよりアクセス)

③在宅避難時の備蓄について表示

在宅避難時(約3日分・4人家族)の主な備蓄(品目・量)

アンケート調査の概要

■対象者、回答期間、回答数

対象 : 診断書の配布対象世帯の方および、一般の方※1
回答期間 : 令和5年7月～令和5年12月
回答数 : 8,621件 (R5.12.31時点)

※1 診断書を受領した方と、配布対象外（一般）の方では設問が異なる

■分析の視点

<視点1>
水害リスクの認知

自宅の**水害リスク**（浸水深、浸水継続時間、家屋倒壊等氾濫想定区域）について、**どの程度認知**されているか。

<視点2>
平時からの備えへの意識啓発

水害リスクを認知することで、**日頃からの備え**を行うきっかけとなったか。

<視点3>
災害時の避難行動に与える影響

水害リスクを認知することで、**災害時に自宅（在宅）以外への避難行動（広域避難等）**をとるきっかけとなったか。

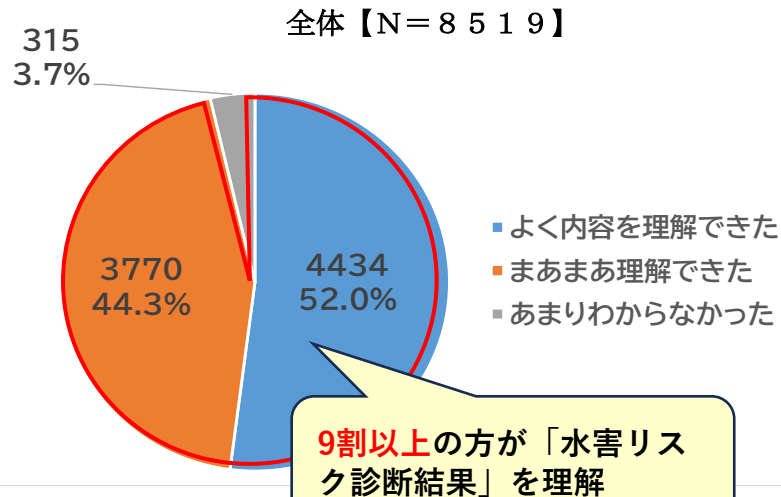
<視点4>
本診断書の評価

本診断書で、**具体的にどこが分かりやすかったのか、役に立ったのか。**

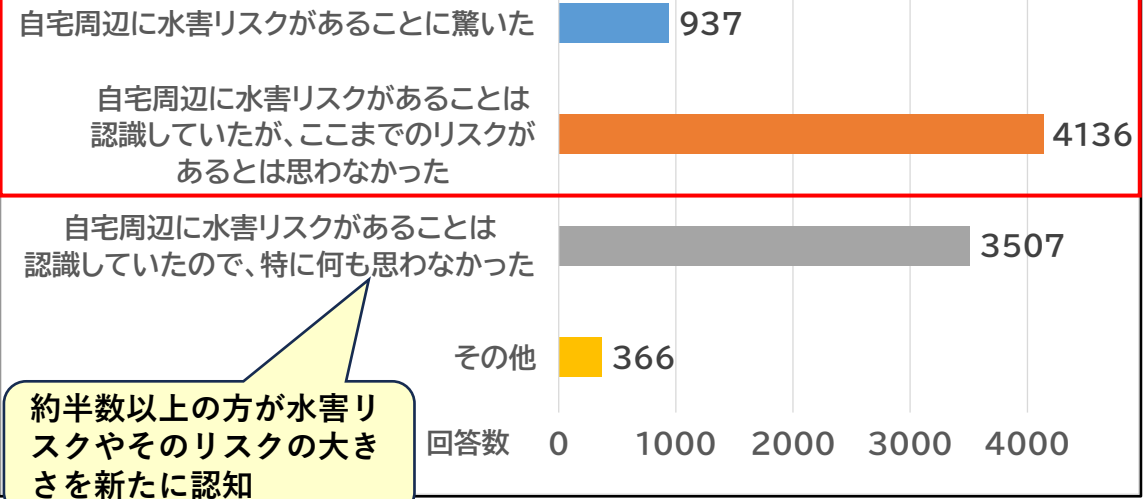
<視点1> 水害リスクの認知

- 「水害リスク診断結果」について、9割以上の方が内容を理解（グラフ左）。
- そのうえで、約半数以上の方が水害リスクの判定結果を確認したことにより、新たに「水害リスクがあること」や「具体的な水害リスクの大きさ」を認知（グラフ右）。
- 自由意見においても、具体的な浸水深や浸水継続時間等を初めて認識するきっかけとなった人の意見が多い。

Q 我が家の水害リスク診断書」表面にある「1. 水害リスク診断結果」に書かれた内容について、次の選択肢から、最も近いものを選んでください。



Q 「我が家の水害リスク診断書」の判定について、どのように感じましたか？（複数選択可） 全体【N=8519】



◆関連する自由記述の意見抜粋

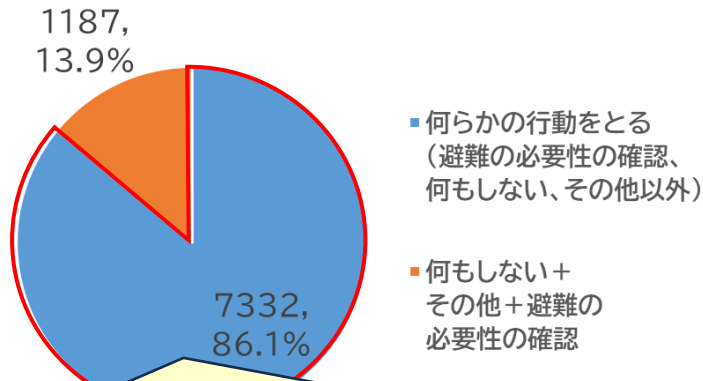
- ・半世紀以上ここに居住していますが、大きな水害はなかったため安心している気持ちが強いです。実際に浸水リスクの深さが6.5メートルという数字を見ると、恐怖を感じ水害に対する準備をする必要性を強く感じた。（江東区）
- ・今年の7月に引越してきた際に区役所で確認してはいたが、気になっていたので、再認識できて良かった。（葛飾区）
- ・想定される水害リスクの根拠となる雨量がどの程度か知りたかった。（葛飾区）
- ・水害のリスクがあることを周知・理解することは重要だが、避難指示の基準やタイミング等についてもっと精査する必要があると考える。（足立区）

→ 自宅の水害リスク情報に関し、認知度向上の効果を確認

<視点2> 平時からの備えへの意識啓発

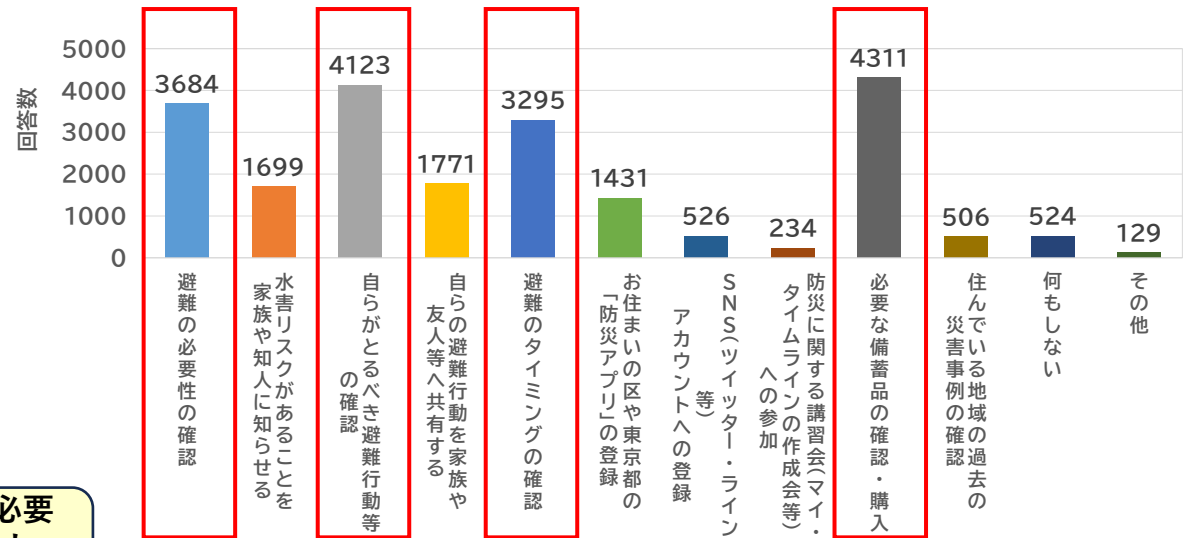
- 具体的な行動を選択（「避難の必要性の確認（単独回答）、何もしない、その他」以外）した人は、全体の約9割となり、高い割合で平時の備えを行うきっかけに（グラフ左）。
- 診断書に記載された水害リスクを確認することにより、特に「必要な備品等の確認・購入」、「自らがとるべき避難行動等の確認」などの行動をとる人が多い（グラフ右）。

Q 「我が家の水害リスク診断書」の水害リスクを確認し、どのような行動に移したいと思いますか？（複数選択可）
全体【N=8519】



右記グラフのうち、具体的な行動を選択（「避難の必要性の確認（単独回答）、何もしない、その他」以外）した人は約9割

Q 我が家の水害リスク診断書」の水害リスクを確認し、どのような行動に移したいと思いますか？（複数選択可） 全体【N=8519】



特に避難行動の検討や備蓄に関する対策のきっかけに

◆関連する自由記述の意見抜粋

- ・どのタイミングで、どのように行動するのか、集めた情報で自己判断すべきと痛感している。（江東区）
- ・今回の書類で具体的な数値やチャートを見て水害リスクや取るべき行動がわかって大変良かった。実際に避難が必要なときに手遅れにならないよう行動できるように心掛けたい。（墨田区）
- ・浸水が、起こることは想定していたが、浸水継続期間が予想より長いことに驚いた。備蓄品の買い増しを早急に検討する必要があると思った。（足立区）
- ・診断結果の「浸水継続期間」に対応できる食糧備蓄は、量的に無理だと思う。せいぜい3、4日分ではないかと。（江東区）

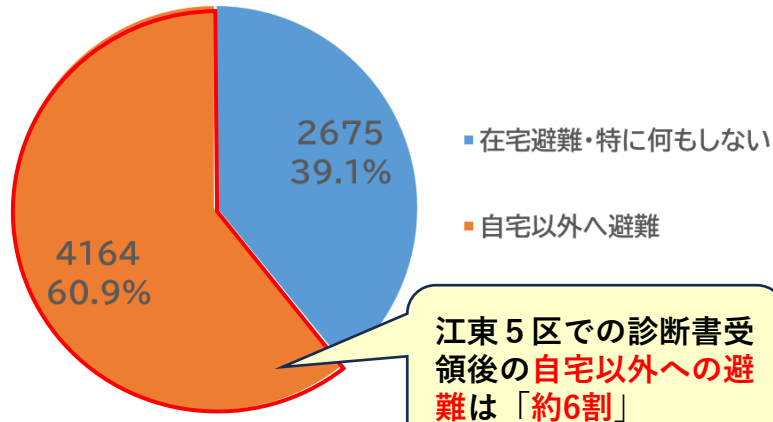
→事前の避難行動の検討や備蓄品の準備等、平時からの備えに関する意識啓発の効果を確認

< 視点 3 > 災害時の避難行動に与える影響 1/2

◆『自宅以外への避難』に関する意識

○水害時に選択する避難先について、**自宅以外への避難を選択した人の割合は「約6割」**

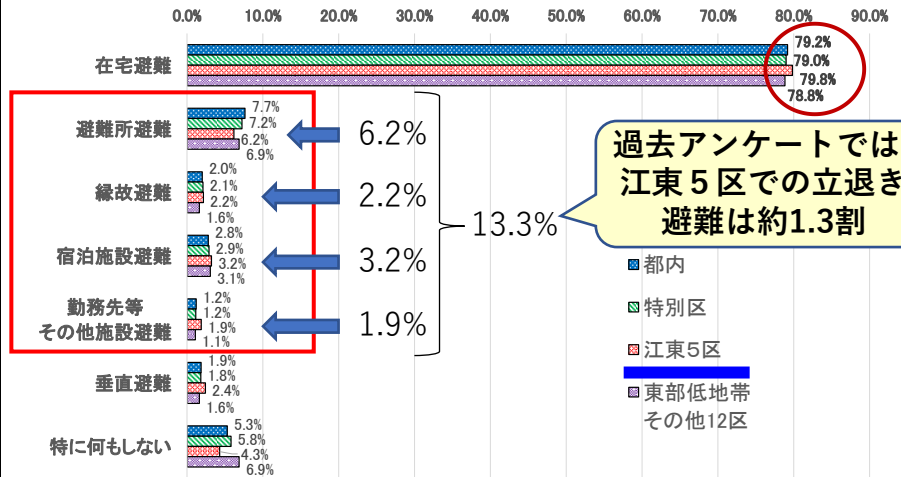
Q あなたは、実際に「我が家の水害リスク診断書」の判定を踏まえて、どこへ避難するか、もしくは避難先を確保しようと思いませんか。（複数選択可）全体【N=6839】



※「在宅避難」と「在宅避難以外」の項目を両方選択した人を除外して集計

【参考】

図表42 水害時に想定する避難行動（第一順位のみ）



※ 調査では第5順位まで聴取しているが、そのうち、第1順位で当該避難行動を選択した回答者の割合

※令和3年東京都総合防災部インターネット・アンケート調査より作成

（出典）首都圏における大規模風水害時の防災情報の発信・伝達のあり方について（R5.3）
* アンケートの対象者・設問等が異なるため、概略の傾向を確認するために比較

◆関連する自由記述（Q23）の意見抜粋

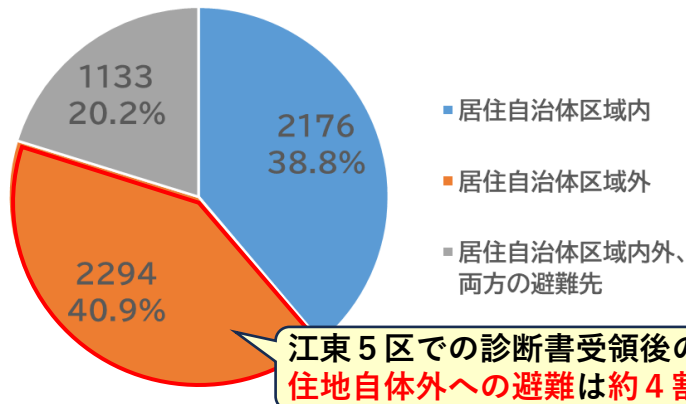
- ・私の家は4階で今は安易に大丈夫かなと思っていましたが意識を変えていこうと思いました。（江戸川区）
- ・アパートの3階に暮らしているので浸水までは無いと思っていたが、**浸水継続期間が一週間となると早めの避難が必要**と感じた。（江戸川区）
- ・足立区内には**3階以上の建築物が少ない**です。避難の方法として例示するのは良いですが、もう少し具体的にどうするか示していただきたい。**高齢者や歩行困難な方の避難方法等も、もっと分かりやすく示してあげては。**（足立区）

➔ 「自宅（在宅）避難」から「自宅以外への避難」への意識啓発を確認

◆『広域避難』に関する意識

○水害時に**自宅以外への避難行動**をとる場合の避難先について、診断書を受け取った後に回答した本アンケート結果では、**居住自治体外（＝広域避難）**を選択する人の割合が約4割

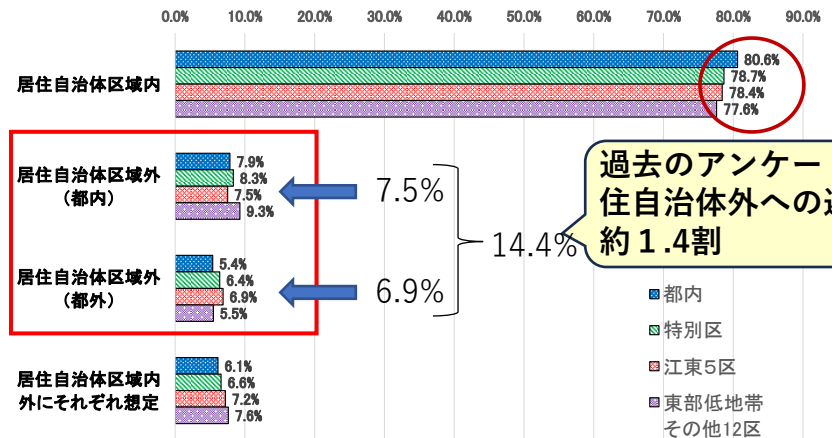
Q あなたは、実際に「我が家の水害リスク診断書」の判定を踏まえて、どこへ避難するか、もしくは避難先を確保しようと思いませんか。（複数選択可）全体【N=5603】



※「在宅避難、特に何もしない、その他」のみを選択している人を除外して集計

【参考】

図表44 在宅避難以外の行動をとる場合の想定する避難先(SA)



※ 水害時の避難先として、「自治体が指定する避難所等」、「親戚・知人宅や別宅等」、「ホテル・旅館等の宿泊施設」、「その他の施設(勤務先や在学先等)」のいずれかを選択した回答者に避難先の立地地域を聴取(SA)

※令和3年東京都総合防災部インターネット・アンケート調査より作成

(出典) 首都圏における大規模風水害時の防災情報の発信・伝達のあり方について(R5.3)
*アンケートの対象者・設問等が異なるため、概略の傾向を確認するために比較

◆関連する自由記述の意見抜粋

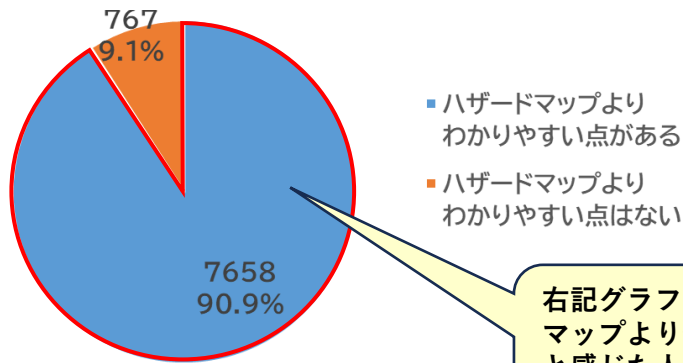
- ・広域避難が必要なことは分かったが、どこに行けば良いかわからないので、避難所以外を調べないといけないと思いました。(足立区)
- ・今回、具体的な情報を頂いたことで、**早めの行動ができる段階では広域避難**、それ以外では在宅避難と考えることができ、頂いたシートが良き情報源となりました。大変貴重な取り組みだと感動しました。(葛飾区)
- ・広域避難のタイミング、必要性をもっと発信してほしい。**会社や学校を休んで早めに避難する必要性**を国全体に広めてほしい。(江戸川区)
- ・ほぼ全員の該当者が広域避難をできるか、フォローできる体制が確保できているのか、不安と言うより、絵に描いた餅のような感じがしています。特に、地域に多い**独居高齢者**などには、どのような援助を考えているのでしょうか。(墨田区)

→居住自治体「内」の避難から居住自治体「外」への避難（広域避難）への意識啓発を確認

<視点4> 本診断書の評価

- ハザードマップより分かりやすいと感じられる点があると回答した人の割合は、全体の9割（グラフ左）。
- 「水害リスクを我が事として確認できる」「数値として確認できる」「必要な事前準備も確認できる」等が特に分かりやすいと感じた人が多い（グラフ右）。
- 自由回答においても、本事業の有効性等に関する意見を多く確認。

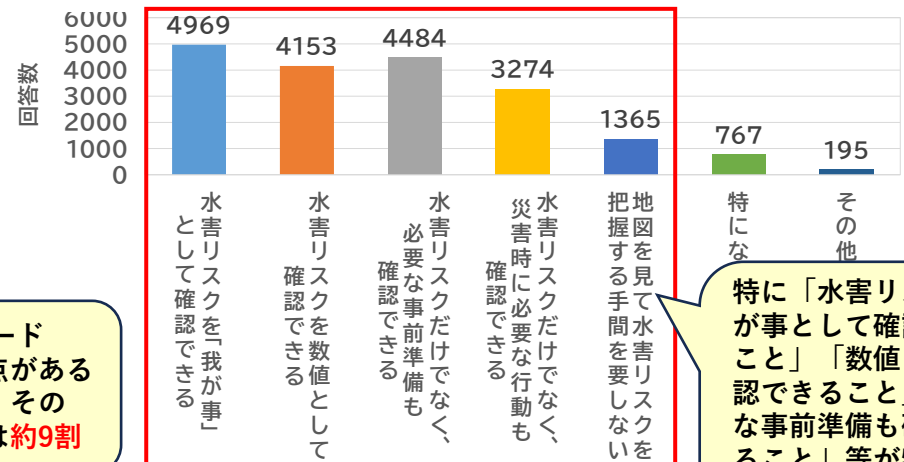
Q 「我が家の水害リスク診断書」について、ハザードマップに比べてわかりやすいと感じた点があれば教えてください。（複数選択可）全体【N=8425】



※「その他」のみを選択した回答者は除外して集計

右記グラフのうち、ハザードマップより分かりやすい点があると感じた人（「特になし、その他」以外を選択した人）は約9割

Q 「我が家の水害リスク診断書」について、ハザードマップに比べてわかりやすいと感じた点があれば教えてください。（複数選択可）全体【N=8425】



特に「水害リスクを我が事として確認できること」「数値として確認できること」「必要な事前準備も確認できること」等が特に分かりやすいとの回答

◆関連する自由記述の意見抜粋

- ・災害対策が分かりやすくまとめられ、備蓄や避難方法やタイミングが確認出来ました。とても参考になる資料でハザードマップなどと一緒に保管しておきます。（足立区）
- ・診断書の他に区が、ご連絡として避難情報の入手方法を明記されていて助かりました。川が周囲に沢山あるため避難の判断がわかりにくかったのですが、荒川が洪水したら駄目だとハッキリわかったので良かったです。良い試みだと思います。（葛飾区）
- ・今後も継続的にこのような資料を送って下さると改めて再確認出来る為送って欲しい。（足立区）
- ・注意喚起のための情報提供は必要だが、不安ばかりを強調することなく、その先の多少なりとも安心材料としての情報提供もお願いしたい。（足立区）

→ハザードマップの表記内容がより明確に分かりやすくなる等、概ね事業の有効性を評価する意見等を確認

「我が家の水害リスク診断書」配布事業で得られた知見（まとめ）

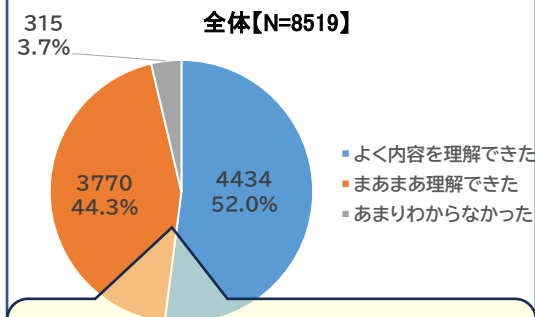
事業の効果検証

「我が家の水害リスク診断書」配布事業に関するアンケート結果等から、以下の効果を確認（回答数8,621件）

- ① 自宅の水害リスクを直接各世帯に配布することにより、**自宅の水害リスク情報**に関し、**認知度向上**
- ② 災害時の避難行動に備えた**平時からの備え**に関する**意識啓発**
- ③ **自宅（在宅）避難から自宅以外へ**の避難、**居住自治体「内」の避難から居住区域「外」への避難（広域避難）への意識啓発**
- ④ ハザードマップの表記内容がより明確に分かりやすくなる等、概ね事業の有効性を評価

■主なアンケート結果

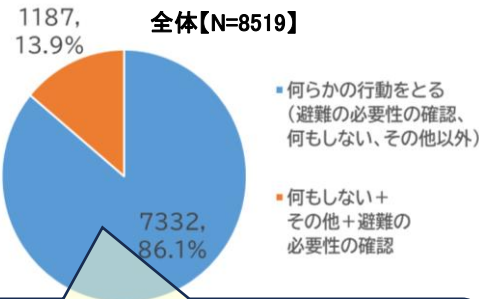
Q 診断書の「水害リスク診断結果」の内容が理解できたか？



「水害リスク診断結果」を理解できた人は**9割以上**

※「水害リスク診断結果」を受け、**半数以上**の人が、水害リスクがあることや、そのリスクの大きさについて新たに認知したと回答

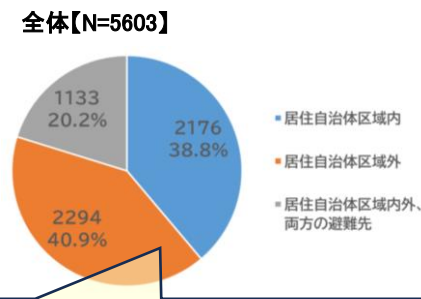
Q 診断書の「水害リスク」を確認し、どのような行動をとろうと思ったか？



② 診断書を見て具体的な行動をとりたいと思った人は**約9割**

※特に、具体的な行動として、「必要な備品の確認・購入」、「自らがとるべき避難行動等の確認」などの回答が多い

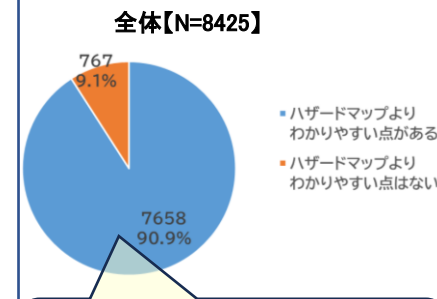
Q 診断書の判定を踏まえて、どこへ避難しようと思ったか？（居住自治体内外）



③ 診断書を見て居住自治体区域外に避難（広域避難）しようと思った人は**約4割**

※なお、今回のアンケートとは対象者、設問等が異なるものの、令和3年に東京都が実施したアンケートでは、江東5区の居住自治体外への避難は**約1.4割**（出典：首都圏における大規模風水害時の防災情報の発信・伝達の在り方について（R5.3））

Q 診断書について、ハザードマップより分かりやすいと感じた点はあるか？



④ ハザードマップより分かりやすい点があると**思った人は約9割**

※特に分かりやすいと感じた点として、「水害リスクを「我が事」として確認できる」、「水害リスクだけでなく、災害時に必要な行動も確認できる」、「水害リスクを数値として確認できる」との回答が多い